

# 古くから伝えられる

## 集落の伝統

「カワシモさん」を訪ねて…

毎年1月15日は「小正月」と呼ばれ、正月飾りを下ろしてどんと焼きをするなど、全国各地で様々な儀礼が行われます。

北海道では、主に道南でこの日を「オナゴの正月」と呼び、女性が遊んで樂をする日としていました。積丹町では、毎年1月16日に旧余別村地域で、「カワシモさん」と呼ばれるご神体を祀り、女性が集まり会食などをする行事が催されています。



▲来岸会館での「カワシモさん」の様子

### 神岬地区では 2体のご神体

1月16日、神岬会館では、午後1時頃、2体のご神体を祀った祭壇の前に、15人程の女性が集まっていました。神岬では、この行事を「川下さん」と呼び、毎年1月15日にご神体を同会館へお迎えし、翌日の昼間に地区の女性が集まり会食をします。2体のご神体は姉妹で、祭壇に向って右側が姉（尾根内地区）、左

側は妹（桎泊地区）で、それぞれの地区で祀られているものです。（写真左）

かつては、尾根内と桎泊でそれぞれで川下さんが行われていましたが、平成6年より合同で行われるようになったとのこと。



▲神岬地区の2体のご神体

### 地域で異なる作法

来岸の「カワシモさん」も16日の夕方から行われ、ここでは「川志母・川子母」と表記されています。

来岸会館に、五段の祭壇が置かれ、お寺の住職を迎えてお経をあげ、会食となります。現在、お経をあげるのは来岸のみで、神岬・余別では行われていません。

また、神岬ではかつて子供も参加していたのに対し、来岸で

は成人女性のみである点、さらに祭壇の形態など、両地区では作法に多少の違いがありました。今回は余別町の「カワシモさん」を取材することはできませんでしたが、神岬・来岸とは異なる作法が残されているものと思われる。

### 次世代への継承を

両地区でお話を伺い、ともに共通するのは、高齢化によって「カワシモさん」の担い手が減り、現在の形でいつまで続けられるのか、という問題です。その中

で今、我々ができることは、「カワシモさん」の姿を記録し、後世に伝えることです。ご神体を守り、次世代へその伝統を引き継いでいくことは、積丹で女性がいかに生きてきたか、という歴史を知ることでもあります。こうした機会を守るこそ、今を生きる我々が「カワシモさん」を伝えた先人たちへすべき恩返しではないでしょうか。

（地域おこし協力隊  
教育委員会生涯学習課

阿部 剛

### 「カワシモさん」とは・・・

80年代後半に北海道開拓記念館が余別・来岸・尾根内・桎泊の4カ所で行った調査によると、「カワシモさん」とは、お産の神様であるご神体を祀り、女性だけが講に参加する民間信仰とされ、かつては1月と8月に催されていたものが、ウニ漁で忙しい8月を省略し、1月だけとなりました。当時は、ご神体を迎える際に賑やかな行列を組み、会食後は隠し芸の披露や宝引きも行われるなど盛大に催されていました。

こうした「カワシモ」信仰は、積丹町のほか、函館や松前などの道南地域に、「カワシモ」・「カワスソ」・「カワウソ」として残され、17世紀中頃から始まったと考えられています。

また、兵庫県から福井県にかけての広い範囲にも、婦人病を治すとされる「カワシモ」・「カワッソ」・「カワソソ」などの祭りが分布しています。

このようなことから、積丹町内の「カワシモさん」は、道南の「カワシモ」信仰が伝わり、さらに明治期以降、北陸方面からの移住者によって、本州から持ち込まれたものではないかと考えられています。

# 気持ちを新たに 29人が成人の仲間入り

1月8日、総合文化センター

を会場に平成24年成人式が挙行され、新成人29人（出席者15人の新たな門出を祝福しました。

あでやかな振り袖や羽織はかま、スーツに身を包んだ新成人は、松井町長や岩本議長、土井教育委員長らに握手で迎えられ入場。成人者一人ひとりの紹介に続き、土井教育委員長の式辞町長・議長から励ましの言葉を受けました。

また、新成人を代表して土橋一充さん（日司町）が記念品を



▲誓いの言葉を読み上げる井端太郎さん（左）と船田茜さん（右）



受け取り、井端太郎さん（余別町）と船田茜さん（美国町）が「成人として、自分の考えや行動に責任を持ち、この日を迎えられた感動と喜びを胸に、人生の一步一步を踏みしめていきま

す。」と誓いの言葉を力強く読み上げました。式典に引き続き行われたアトラクションでは、積丹町出身のシンガーソングライター、鎌田結子さんが歌で新成人にエールを送りました。

会場では、同級生との久々の再会を喜び、互いに写真を撮るなど和やかな雰囲気包まれました。

今春は8人が入学

## ピッカピカの一年生

もうすぐ待ちに待った小学校の入学式です。今春、小学校入学を迎えるのは、平成17年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた8人です。各小学校への入学児童は次のとおりです。

（児童氏名・保護者名の順）

美国小学校（5人）

野塚小学校（2人）

|                     |       |           |      |      |
|---------------------|-------|-----------|------|------|
| 嶋田楓華                | 坂田太尊  | 梶浦海音      | 川野勇成 | 一戸華音 |
| 雅彦                  | 太外崎享俊 | 正寛        | 洋介   | 昌子   |
| （平成23年12月31日現在 敬称略） |       | 余別小学校（1人） | 佐藤達史 | 生駒雄磨 |
|                     |       |           | 浩    | 雄斗   |
|                     |       |           |      | 晃記   |

## （株）吉本組（岩内町）に感謝状

～ 大雨災害の早期復旧に貢献 ～

町では12月26日、優れた技術力と社会貢献の精神をもって町の災害復旧活動に協力された、株式会社吉本組（岩内町）に感謝状を贈りました。

同社は、昨年7月14日に発生した大雨災害時に、余別川から余別漁港に流れ出た流木などを迅速に除去し、漁船航行の安全確保や早期復旧に貢献されました。

また、来岸漁港付近に落石の危険を周知する看板

の設置や、トイレのペンキの塗り直しを行うなど、事故の未然防止や地域の景観等の保全にも努められました。



## 平成24年 第1回積丹町議会臨時会 議会ニュース

平成24年第1回積丹町議会臨時会が1月20日招集され、議案2件が審議され、同日閉会しました。そのあらましについてお知らせします。

議案第1号  
積丹町総合計画条例の制定について

新たな町総合計画の策定について、地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決事件として定めるなどの条例を制定するものです。

（原案可決）

議案第2号

平成23年度 積丹町一般会計  
補正予算（第8回）

防災資機材整備事業計画の一部を、町の財政負担が少ない過疎対策事業債事業に財源を変更し、現行予算に1、180万円を追加して、歳入歳出予算の総額を26億3、003万8千円とするものです。

（原案可決）